

一宮西高 同窓会報

第27号

2012年7月7日発行

発行：一宮西高校同窓会事務局

一宮市萩原町串作字河田1番地 TEL 491-0376

TEL (0586) 68-1191 FAX (0586) 69-0196

E-mail dosokai@ichinomiyanishi-h.aichi-c.ed.jp



「50周年を前に」

向夏の候、同窓会会員の皆様におかれまして、益々御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は一宮西高同窓会の運営にご支援、ご協力賜り厚く御礼申し上げます。

今年は、5月21日の金環日食、5月22日のスカイツリー開業で上を向くことで、何かいいことがありました。しかし、すぐにEU債務危機が再燃し、円高、株安

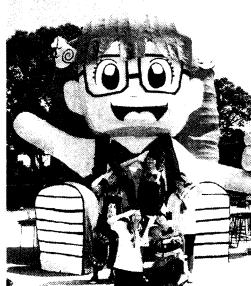
西高もこの春46回生が卒業し、同窓会会員数一七、〇九二名となり、同窓会の結束と益々の発展が

同窓会監査 宮田 浩二

となり、昨年の東日本大震災からの復興途上の日本にまた、難題がでてきました。本当にいろんなことが起こる昨今です。

4日（土）午後5時より一宮スポーツ文化センターにて開催します。来年度は、50周年記念事業もあります。是非、ご参加をお願い申上げます。

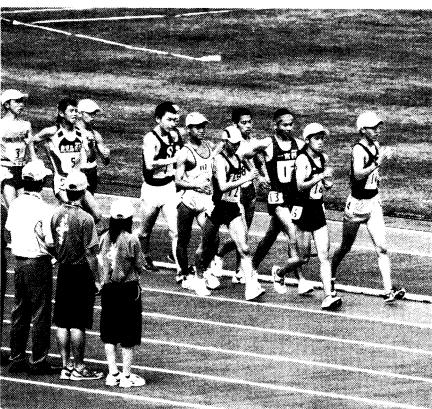
最後になりましたが、皆様のご多幸とご健勝を心より祈念し、お願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。



体育祭マスコット



表彰式
(全国第3位)



インターハイ5000m競歩決勝
(右から3人目が戸松君)

いよいよ来年は、一宮西高創立50周年記念事業を迎えることとなりました。同窓生一人一人、母校に対する思いは違うと思いますが、母校が50周年という節目の年を迎えることに対する喜びは同じなのではと思います。50周年は同窓会も学校、PTAと協力しながら記念事業にふさわしい内容にしていきます。同窓会会員の皆様もご意見アイデアがございましたら是非、同窓会事務局までご連絡お願いします。

さて今年も本年度の総会を8月4日（土）午後5時より一宮スポーツ文化センターにて開催します。来年度は、50周年記念事業もあります。是非、ご参加をお願い申上げます。

最後になりましたが、皆様のご多幸とご健勝を心より祈念し、お願いいたします。ご挨拶とさせていただきます。

平成24年 同窓会総会のお知らせ

(全日制第7回生第27回生学年同窓会同時開催)

日 時 8月4日（土）午後5時より
場 所 一宮スポーツ文化センター
会 費 5,000円（学生は3,000円）

※出欠は同封のハガキ、またはE-mail dosokai@ichinomiyanishi-h.aichi-c.ed.jpでお知らせください。その他のお便りもE-mailでどうぞ。

※来年度は、第8回生・第28回生（昭和49年卒・平成6年卒）の学年同窓会を計画しております。

※西高ホームページ
<http://www.ichinomiyanishi-h.aichi-c.ed.jp/>
も参考にして下さい。
HPの中にも、同窓会のE-mailアドレスが記されています。



遠足（リトルワールド）



予餞会劇

一宮西高校は来年の平成25年度に50周年を迎えます。

「赴任の挨拶にかえて」

校長 鈴木 英史

出す意思を告げることで、「啄は親鳥が殻をついて雛が出るのを助けることを表します。雛が誕生する際に卵の中から声を発しながら殻をつき、同時に絶妙なタイミングで親鳥が殻をついて雛の誕生を助ける様を「啄同士」は表しています。この鳥の姿を人間の師弟関係に置き換えて、教え導く者と教えられる者が絶妙なタイミングで見事な呼吸を見せ合うという意味でこの表現が引き合いに出されます。

私は、この「啄同士」をあらゆる教育活動の場面で実践している学校が西高であると考えています。しかし、生徒たちには、さらなる明確な目標を持つて、将来を見据えた粘り強い日々を送ってもらいたいと思います。殻をついて鳥の雛がかえるのはたったの一度だけですが、生徒たちには、何度も殻を破つて成長を繰り返してもらいたいものです。ここ西高での三年間は、成長のための挑戦の日々であつて欲しいと考えています。一度や二度の挑戦では破れない殻もあるかもしれませんが、自分の努力と教師のよき導きと励ましにより必ずや殻は破れるものです。生徒一人一人が熱き「青春の志」を胸に秘めて頑張ってくれることを期待しています。

私たち教師の厳しくも温かい指導を得て、生徒たちが果敢に挑戦する、このような師弟愛に満ちた、明るく活力に溢れた学校づくりを目指していきたいと考えております。

同窓会の皆様方には、本年度も昨年度と同様に本校の教育にご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

宮スポート文化センターで行われました。

六回生・二十六回生を中心として、総勢八十一名の方々に参加していました。ご多忙にもかかわらず、歴代の校長先生をはじめ、懐かしい旧正副担任の先生方、現職員の先生方にもご出席いただきました。残念ながら、一昨年より四十名ほど参加者が減少し、例年より少し寂しい総会となりました。

総会では、平成二十二年度の事業報告・会計報告、役員改選、平成二十三年度の事業計画・予算案の審議と、滞りなく議事を進めることができました。総会でもご報告させていただいたように、同窓会費及び同窓会報郵送料カンパでは多くの方にご協力いただき、重ねてお礼申し上げます。

懇親会は、学年同窓会を担当した六回生・二十六回生に新会員の四十五回生を加え、若々しい雰囲気の中で盛り上がりしました。各チームでは、昔話に花が咲き、時間が経つのも忘れて旧交を温めることができました。懇親会を締めくくる校歌齊唱も恒例になり、名残りが尽きないままお開きとなりました。

本年は七回生と二十七回生の学年同窓会を開催させさせていただきました。多数の方が参加していただければと考えております。なお、担当学年にかかわらず、クラス会や部活動のOB会の場としても同窓会総会を大いに活用していただけたら幸いです。

今年度の総会に、是非皆様お誘い合わせの上、気軽に参加していただきますようお願い申し上げます。

初冬の肌寒さが増す中、総勢12名の関東在住の少数精銳の卒業生にご出席いただきました。それ故にいつも以上に個人個人と深く話ができ、例年にも増して『紳』という点で実りの大きい会でした。

一次会は、新宿西口高層ビルの一室にて行いました。引き続き場所を移動しての二次会には、カジユアルな雰囲気の中、旧友や新たに知り合った同窓生との交流を深めました。西高からは、祖父基督教頭、水谷教諭のお二方に、はるばる東京までお越しいただきました。現在の西高の様子について報告をいただき、参加者一同、懐かしい思いで母校の近況に耳を傾けました。

本同窓会は、各世代を超えて、学生や社会人がいつでも気兼ねなく参加できる会です。また、私は一つのメリットとして、学生が各企業で活躍されている先輩方々から話を聞き、社会人も学生の後輩方々から話を聞き、「西高生」という『紳』により新たな発見、新たな人脈形成など、私が在籍する会社の創業者の言葉を借りれば、常に『日新たに』そして、『衆知を集め』場になればと願っています。

このように東京で企業や大学などにおいて頑張つていらっしゃる先輩、後輩の方々から刺激を受け、たくさんのエネルギーをもらい与える事ができる場もあると思います。このような素晴らしい『西高生』の『紳』という伝統を、毎年絶やさずに発展させ続けていきたいと思つています。

今年度よりは、本同窓会を更に飛躍させ、一人でも多くの『西高生』がメリットを共有するべく、

一宮西高等学校校歌によせて
木村 齊

作詩の久松潛一先生については、先達の諸先生方がいろいろ記されておりますので、余り触れないことにします。しかし、旭丘高校に出ていた際、歌碑に久松潛一とあるのをみつけ何かうれしく思つた記憶があります。

それでは26年間にわたる校歌の研究成果？を音楽研究者の立場で発表します。

〈前奏〉前奏のメロディーは6度の跳躍音を繰り返し属七音まで一気に駆け上がり、定番の和音進行に従い4小節で完了する。

〈メロ〉歌い出しF音（ファ）は発声練習時の歌い出しと同じ高さで歌いやすい。付点八分と十六分の組合せタッカのリズムと後ろの3連符の対比がいい。「光あまねし」

〈二メロ〉ここは伴奏型が8ビートになるのに、メロディーはゆつたりと歌われる。このあとのサビ部分を生かす。「♪心清らに」
（サビ）勇ましいタッカのリズムで駆け上がった先で、一瞬平行調のト短調となるが、「いざ！いざ！」で主和音に完結する。この部分が1拍ごとに和音が変わるためにすぐ2番、3番に入つても違和感を感じないのでしょう。

（エンディング）3番だけに設けられ「いざ！一宮西高校」と歌う部分。ここはいきなり変ホ長調に転調するかと思えば再びト短調の和音、でもそこはちようど歌詞「にし」を協調しているワード。

春の人事異動で、18年間勤務しました。西高大好き人間である私にとって、覚悟していた転勤とはいえ、いざとなると、高校時代を含めた数々の思い出が脳裏を駆け巡り、強く後ろ髪を引かれました。西高での勤務最終日、多くの先生方に見送っていたいた折には、熱くこみ上げて来るものを抑えることができませんでした。

私が西高に生徒として入学したのは、学校群制度の3年目で、入学者先は、伝統校である相手校か西高に振り分けられていました。意のままにならない結果を甘受するか、逆に、高校入試制度との幸運

二度の出会い

入野勝年



プラスバンド部定期演奏会（一宮市民会館）

〔結論〕この校歌は初めハ長調で作曲されたが、音が高いという理由で変ロ長調に下げられて現在に至つてはいると推測されます。おかげで、吹奏楽には編出しやすく、創立40周年の折には一メロをモチーフとした、ホルンから始まる序奏部を加えることができました。作曲者が特定できませんが、素性のよい校歌であることは間違いないありません。みんなで100年歌い継げたらしいですね。

大きな使命と課題がありました。
「悔し涙で西高に入学しても、う
れし涙で卒業させよう」という強
い決意と重責。生徒の立場では知
るすべもなかつた先生方の献身的
な努力と熱意は、西高の教師にな
つて初めてわかつたことです。
進路実績をはじめ、何かにつけ
て伝統校と比較される中、西高と
しての独自性を模索しながら、知
性あふれる心豊かで逞しい生徒を
育てたいという熱い思いは、具体
的な試みとして実践され、成果を
上げていきました。希望者を対象
とした補習が始まつたのも、この
頃からと記憶しています。

学校群から複合選抜制度へ、さ

合宿、西高祭、全定交流会、林間学校、スキーツーリング、予餞会など、時間がいくらあっても足りないほどの学校行事がありました。学校週5日制の導入による時間的な制約で、一部の行事は精選されたものの、とりわけ学校祭は、西高の看板行事として、昔も今と変わらず盛大に行われてきました。

当時は昼間定時制もあり、教室の窓越しにぼうつと外を眺めていると、午前中の仕事を済ませて送迎バスから教室に向かう少し大人びた女子高生の列が入り、同じ高校生として、気を引き締められることが何度もありました。このようなくん天涯した教育活動を支える当時の西高の先生方には、

な巡り合わせに感謝をするか、複雑で奥深い心境を整理するには、15歳の中学生にとっては荷が重すぎる運命でした。

私の西高生活は、緊張感の中、意外にも満足感で始まりました。満開の桜の下で行われる猛々しい運動部の勧誘合戦や音楽部の楽しきような合唱で出迎えられた入学式。この時、1年後には自分がどの場に立つて歌つているとは、どうして想像できたでしょうか。オリエンテーション合宿、遠足、修学旅行、球技大会、部活動

らに学校週5日制や大学入試改革、新教育課程など、教育を取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。しかし、西高は、時には容赦なく突きつけられる無理難題にも、時代を先取りしつつ対応し、今の姿を築き上げてきました。このような時代の中で、西高の教師の一人として過ごせたことは、大変幸せに思います。

特に、生き残りを賭けて、学校群から複合選抜への過渡期を乗り越えてこられた先輩の諸先生方から学んだことは、枚挙にいとまが

において、二年生全員に思い思いの俳句を詠ませました。冒頭の三句はその中から選ばれた優秀作品です。普段の生活から離れての修学旅行に、生徒達ものびのびと楽しんでいたように思われます。また、修学旅行を楽しむだけではなく、歴史等を学ぶことについても真摯に取り組んでいたようでした。この同窓会報にも写真を2枚（秋吉台・宮島）掲載しました。生徒達の感動をお伝えすることができたのなら、何よりのことと田代も今年度とほぼ同じ行程で実施の予定です。

昨年度の同窓会活動報告

一、同窓会総会の開催
平成二十三年八月六日（土）一
宮スポーツ文化センターで開催。旧・現職員、一般会員合わせて八十一名の参加をいただきました。

二、「同窓会報」第二十六号の発行
平成二十三年七月七日に発行いたしました。

三、同窓会郵送料カンパの実施
今年度も別記のとおり実施いたしますので、ご協力よろしくお願いいたします。

四、東京支部会の開催

平成二十三年十二月三日（土）
新宿にて開催。西高側からは、
祖父江教頭、同窓生でもある水
谷悟先生が出席され、合わせて
十四名の参加がありました。

五 同窓会入会式および卒業記念
品贈呈式

平成二十四年二月二十九日（水）
に実施されました。第四十六回
生三百十四名が同窓会に入会
し、一般会員総数は一七〇九
名になりました。また、卒業
生には、卒業記念品として、証
書筒を贈呈しました。

◎総合会員納入及び協力金のお礼

間二千円の納入をお願いしますとこ、三百二十四名の方から会費をいたどくことが出来ました。同時にお願いしました協力金とあわせて、五十八万三千九百二十円をいたどくことが出来ました。ご協力ありがとうございました。今年度も、年会費一千円とは別に、一口千円を協力金としてお預いしたいと存じます。同封の振込用紙をご利用の上、郵便局からお振込ください。よろしくお願ひいたします。



修学旅行（秋吉台）



修学旅行（宮島）

昨年度の
同窓会活動報告

